

米国経済・金融概況 (2024年11月)

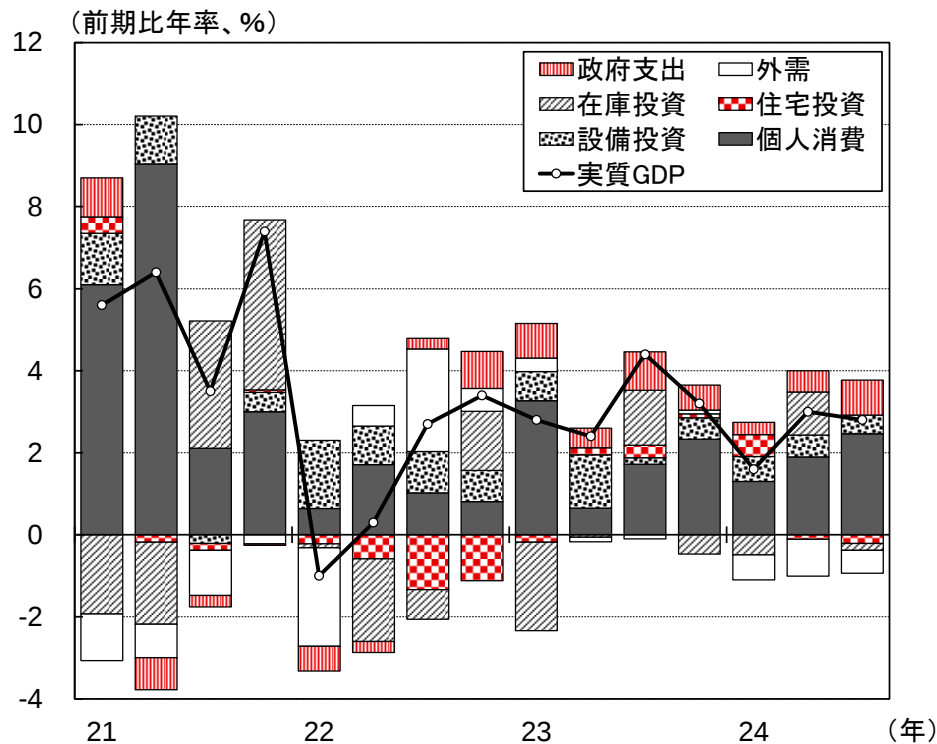
2024年11月26日

経営企画部経済調査室(ニューヨーク)

1. GDP

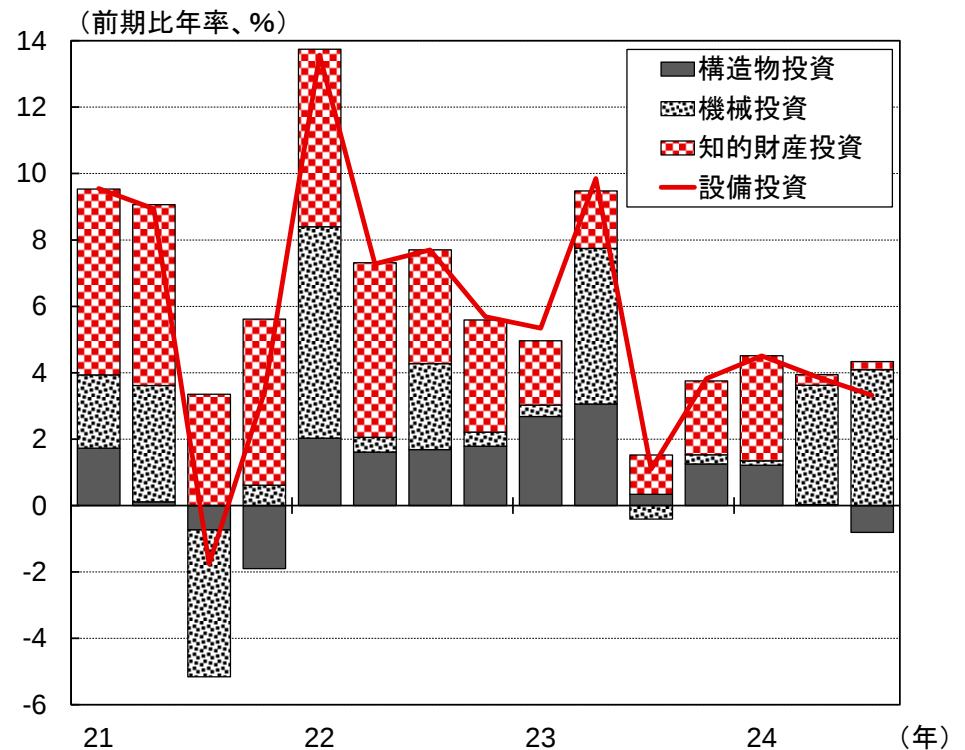
- 7-9月期の実質GDP成長率(一次速報値)は前期比年率+2.8%と前期(4-6月期:同+3.0%)から減速したものの、2%前後とみられる潜在成長率を上回る堅調な結果。
- 需要項目別にみると、全体の約7割を占める個人消費は同+3.7%(前期:同+2.8%)と2四半期連続で加速。内訳をみると、財が同+6.0%(前期:同+3.0%)と大幅に増加し、サービスは同+2.6%(前期:同+2.7%)と底堅く推移。また、設備投資は同+3.3%(前期:同+3.9%)と底堅さを維持。構造物投資は同▲4.0%(前期:同+0.2%)、知的財産投資は同+0.6%(前期:同+0.7%)と低迷した一方、機械投資は情報処理機器が牽引して同+11.1%(前期:同+9.8%)と大幅に増加。
- 住宅投資は同▲5.1%(前期:同▲2.8%)と2四半期連続で減少。一方、政府支出は国防支出が増加して同+5.0%(前期:同+3.1%)と加速。純輸出(寄与度)は同▲0.6%ポイント(前期:同▲0.9%ポイント)、在庫投資(寄与度)は同▲0.2%ポイント(前期:同+1.1%ポイント)と、それぞれマイナスに寄与。

実質GDP成長率の推移



(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

実質設備投資の推移

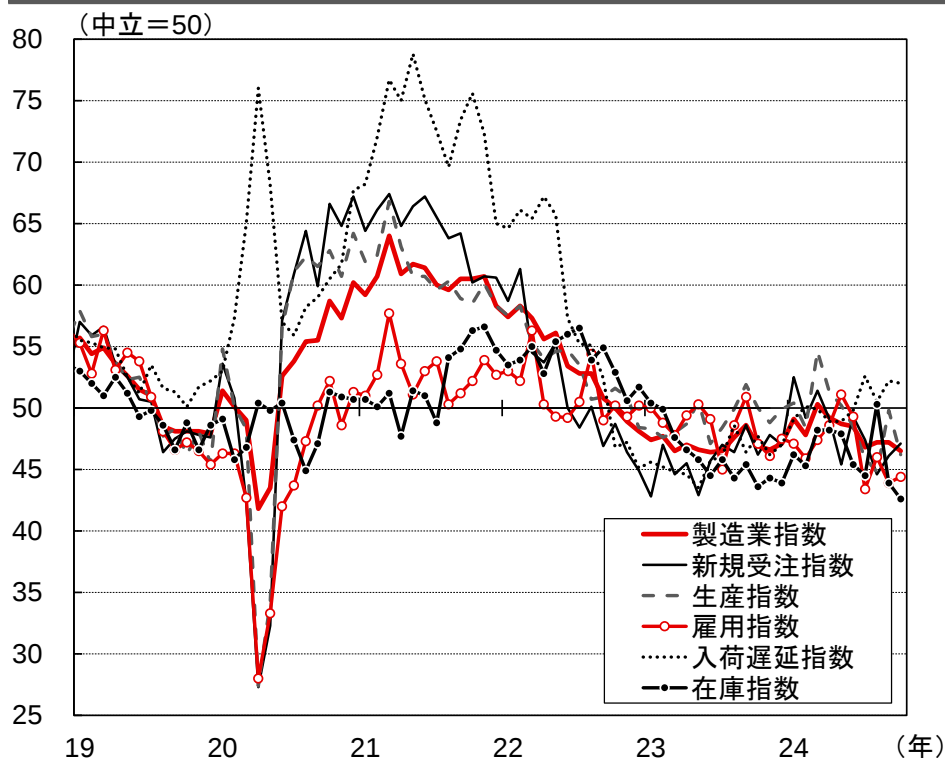


(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 企業活動

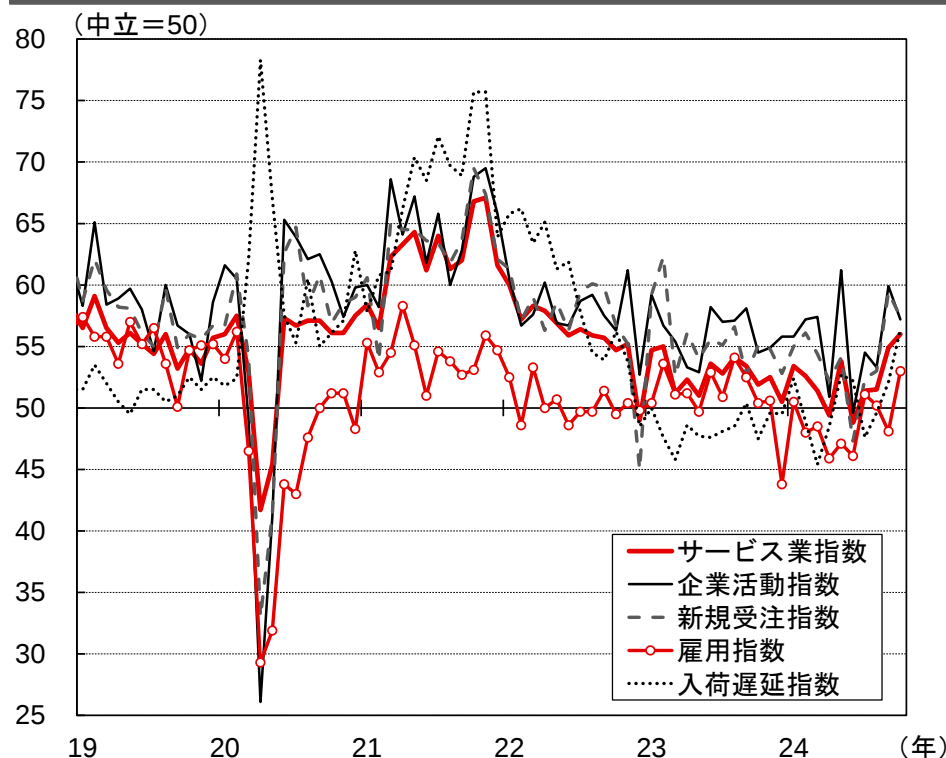
- 製造業の景況感・活動状況を表すISM製造業指数(総合指数)は、10月に46.5(前月比▲0.7ポイント)と低下し、2023年7月以来の低水準。指数の構成項目をみると、新規受注指数(47.1、同+1.0ポイント)、雇用指数(44.4、同+0.5ポイント)は上昇した一方、生産指数(46.2、同▲3.6ポイント)は大幅に低下。大統領選挙後のインフレ再燃リスク等、金融政策の方向性への懸念から企業は設備及び在庫投資に消極的で、需要は引き続き低迷しているとISMは指摘。産業別では全18産業のうち5産業が拡大、11産業が縮小、2産業が横這いを報告(9月は5産業が拡大、13産業が縮小)。
- 10月のISMサービス業指数(総合指数)は56.0(前月比+1.1ポイント)と4ヵ月連続で上昇し、2022年7月以来の高水準。企業活動指数(57.2、同▲2.7ポイント)、新規受注指数(57.4、同▲2.0ポイント)は低下した一方、雇用指数(53.0、同+4.9ポイント)、入荷遅延指数(56.4、同+4.3ポイント)が大幅に上昇。産業別では全18産業のうち14産業が拡大、2産業が縮小、2産業が横這いを報告(9月は12産業が拡大、5産業が縮小、1産業が横這い)。

ISM製造業指数の推移



(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

ISMサービス業指数の推移

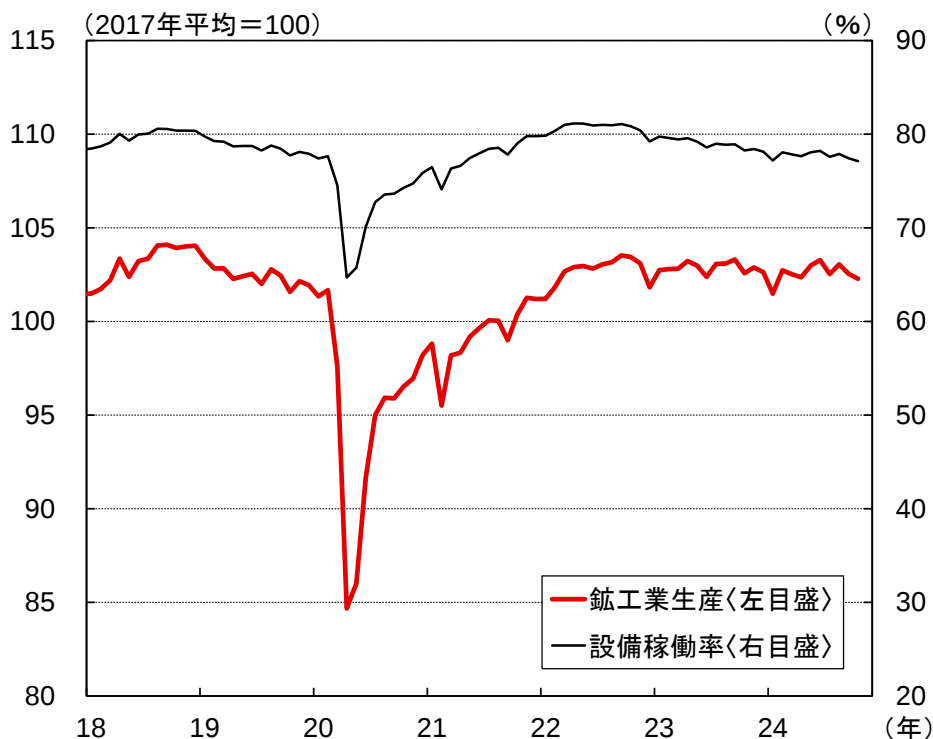


(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. 生産

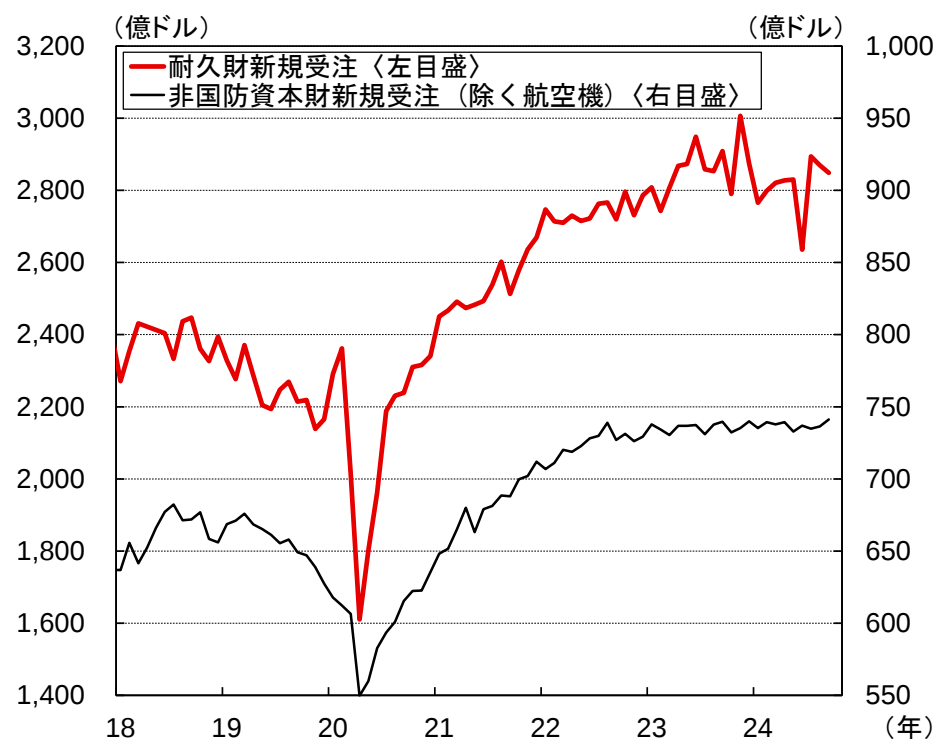
- 10月の鉱工業生産は前月比▲0.3%と2ヵ月連続で減少。うち▲0.2%ポイントは大手航空機メーカーのストライキの影響と公表元のFRBは指摘。産業別にみると、全体の約7割を占める「製造業」(同▲0.5%)は、ストライキの影響を受けた「航空宇宙・その他輸送機器」(同▲5.8%)や「自動車・同部品」(同▲3.1%)が減少。一方、「鉱業」(同+0.3%)、「公益事業(電気・ガス)」(同+0.7%)はそれぞれ増加。10月の設備稼働率は77.1%と前月から0.3%ポイント低下。
- 9月の耐久財受注は前月比▲0.7%と2ヵ月連続で減少。内訳をみると、「輸送用機器」(同▲3.1%)は「自動車・同部品」(同+1.0%)が4ヵ月ぶりに増加した一方、「民間航空機」(同▲22.7%)は大手航空機メーカーのストライキの影響で大幅に減少。また、「機械」(同▲0.2%)、「コンピュータ・電子部品」(同▲0.1%)は減少した一方、「金属製品」(同+2.1%)、「一次金属」(同+0.6%)は増加。設備投資の先行指標であるコア資本財受注(非国防資本財受注、除く航空機)は同+0.7%と2ヵ月連続で増加。

鉱工業生産と設備稼働率の推移



(資料)FRB統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

耐久財受注の推移

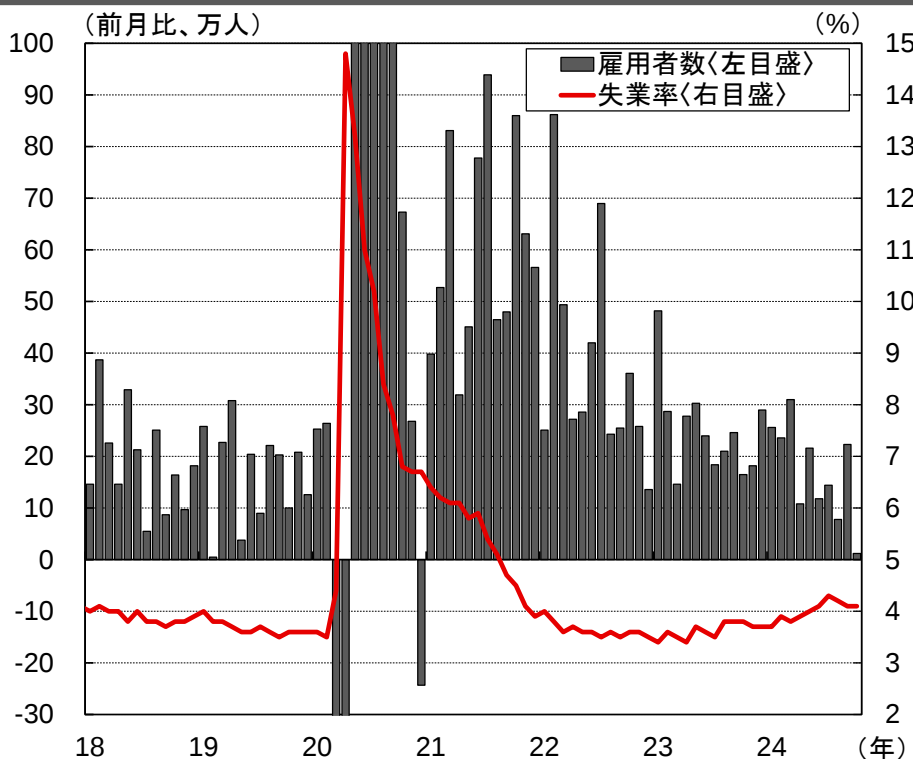


(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

4. 雇用

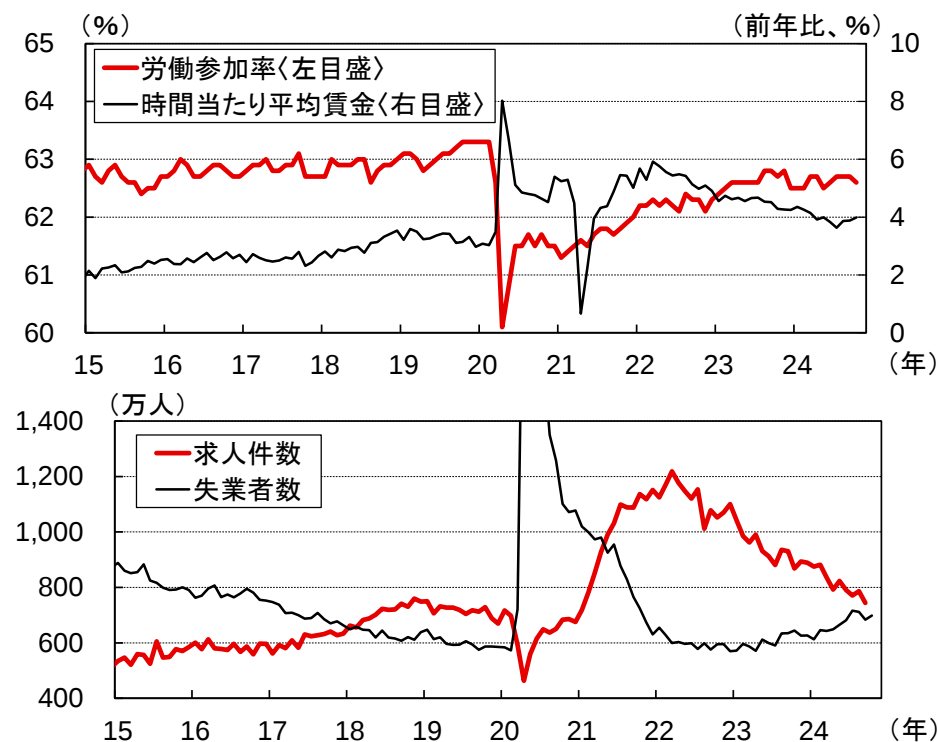
- 10月の非農業部門雇用者数は前月比+1.2万人と、ハリケーン及び大手航空機メーカーのストライキの影響で大幅に減速。業種別にみると、「医療・社会扶助」(同+5.1万人)、「公務」(同+4.0万人)、「建設業」(同+0.8万人)は増加した一方、「専門・ビジネスサービス」(同▲4.7万人)、「製造業」(同▲4.6万人)、「小売業」(同▲0.6万人)、「レジャー・接客」(同▲0.4万人)は減少。
- 10月の失業率は4.1%と前月から横這い。労働参加率は62.6%(前月差▲0.1%ポイント)と小幅低下。時間当たり平均賃金(民間部門)は前年比+4.0%(9月:同+3.9%)と小幅加速。
- 9月の求人件数は744.3万件(前月比▲41.8万件)と2ヵ月ぶりに減少。求人件数を失業者数で割った求人倍率は1.09倍と前月(1.10倍)から小幅低下し、パンデミック前の水準(2020年2月:1.22倍)を下回っている。

非農業部門雇用者数・失業率の推移



(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

労働参加率・平均賃金・求人件数・失業者数の推移

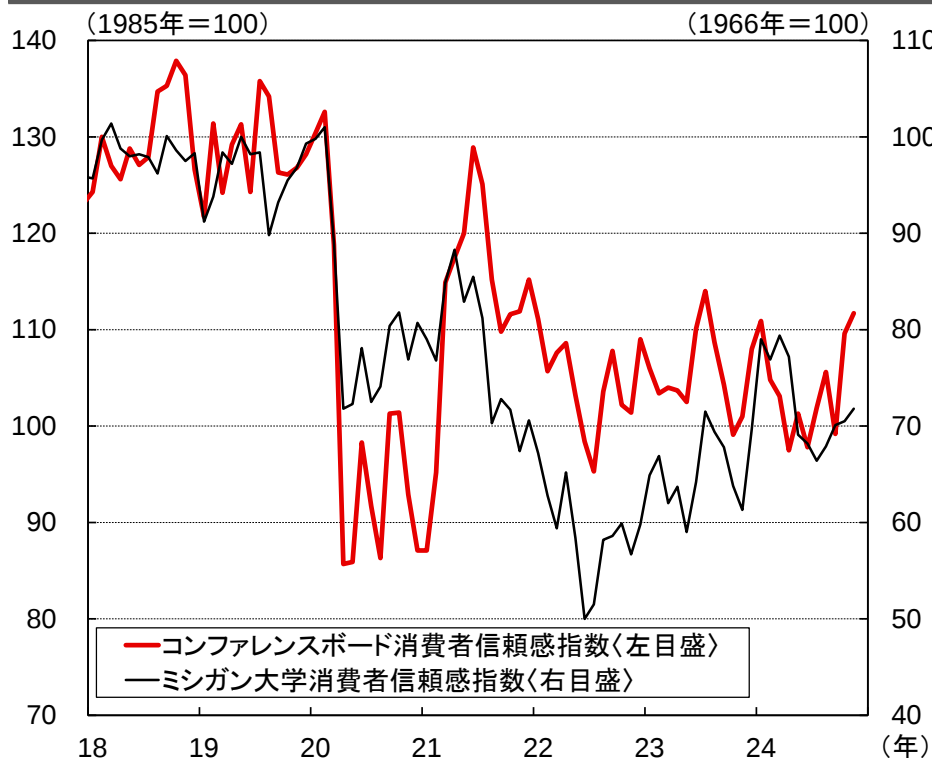


(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

5. 個人消費

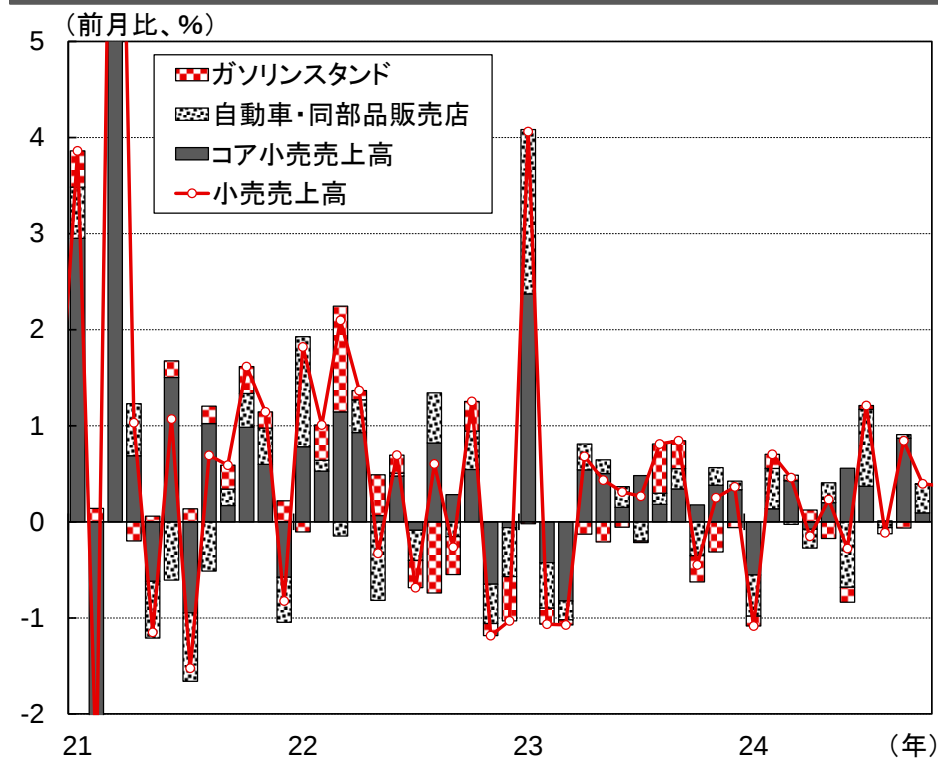
- 11月のミシガン大学消費者信頼感指数は71.8(前月比+1.3ポイント)と4ヵ月連続で上昇、コンファレンスボード消費者信頼感指数は111.7(前月比+2.1ポイント)と2ヵ月連続で上昇。労働市場と株価に対する楽観的な見方が強まったとコンファレンスボードは指摘。
- 10月の小売売上高は前月比+0.4%(9月:同+0.8%、改定値)と2ヵ月連続で増加。また、「自動車・部品販売店」と「ガソリンスタンド」を除くコア小売売上高は同+0.1%(9月:同+1.2%、改定値)と6ヵ月連続で増加。業種別にみると、「電機・家電販売店」(同+2.3%)、「自動車・部品販売店」(同+1.6%)、「飲食店」(同+0.7%)、「建設資材・園芸用品店」(同+0.5%)、「無店舗小売店」(同+0.3%)等が増加。

消費者信頼感指数の推移



(資料)コンファレンスボード、ミシガン大学統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

小売売上高の推移

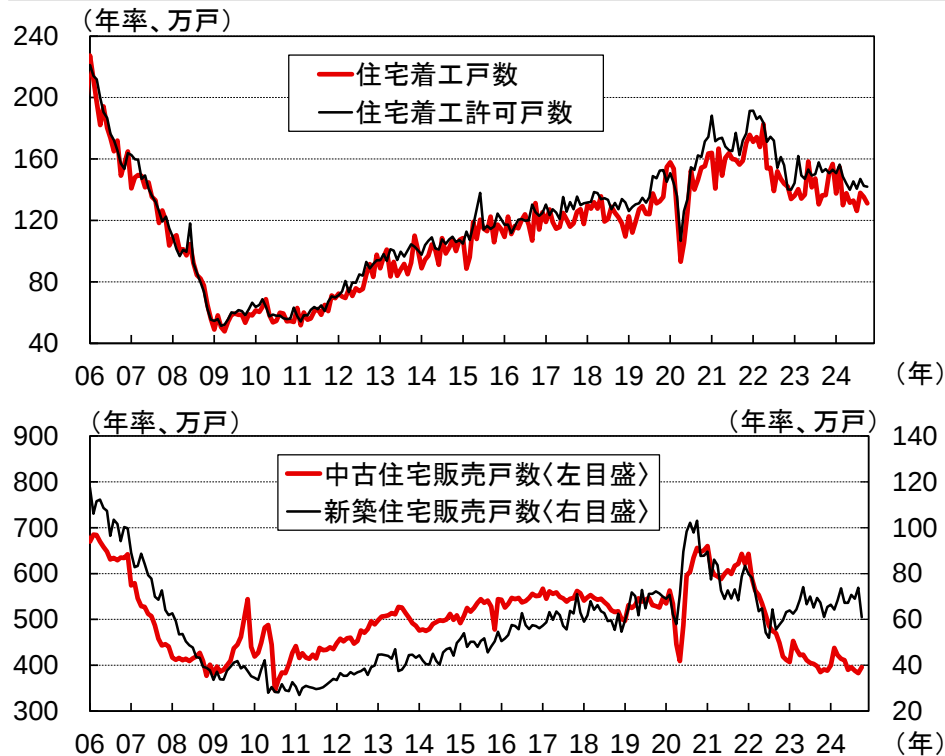


(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

6. 住宅

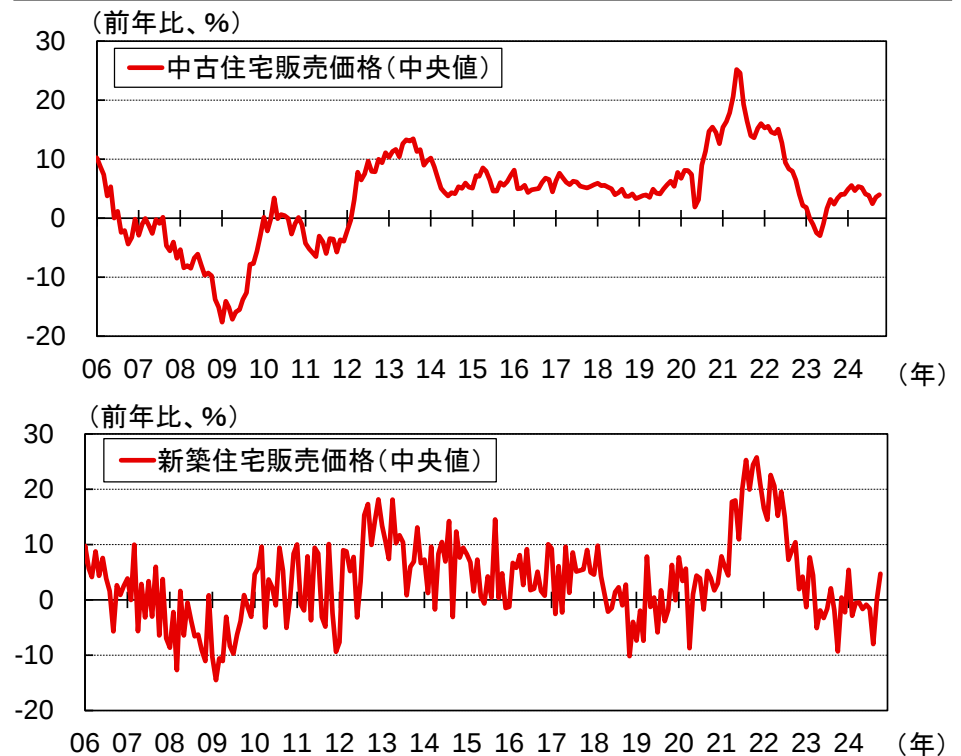
- 10月の住宅着工戸数は前月比▲3.1%の年率131.1万戸(季節調整済)と2ヵ月連続で減少。内訳をみると、一戸建住宅は同▲6.9%と3ヵ月ぶりに減少した一方、集合住宅(5世帯以上)は同+9.8%と3ヵ月ぶりに増加。先行指標である住宅着工許可戸数は同▲0.4%の年率141.9万戸(季節調整済)と2ヵ月連続で減少。
- 10月の住宅販売戸数は、中古住宅が前月比+3.4%の年率396万戸(季節調整済)と3ヵ月ぶりに増加した一方、新築住宅は金利上昇やハリケーンの影響により同▲17.3%の年率61.0万戸(季節調整済)と大幅に減少。
- 10月の住宅販売価格は、中古住宅が407,200ドル(中央値)、前年比+4.0%(9月:同+3.6%)と2ヵ月連続で伸びが加速。新築住宅は437,300ドル(中央値)、同+4.7%(9月:同+0.2%)と2ヵ月連続で上昇。

住宅着工戸数・着工許可戸数・住宅販売戸数の推移



(資料) 全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

住宅販売価格の推移



(資料) 全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

7. 物価

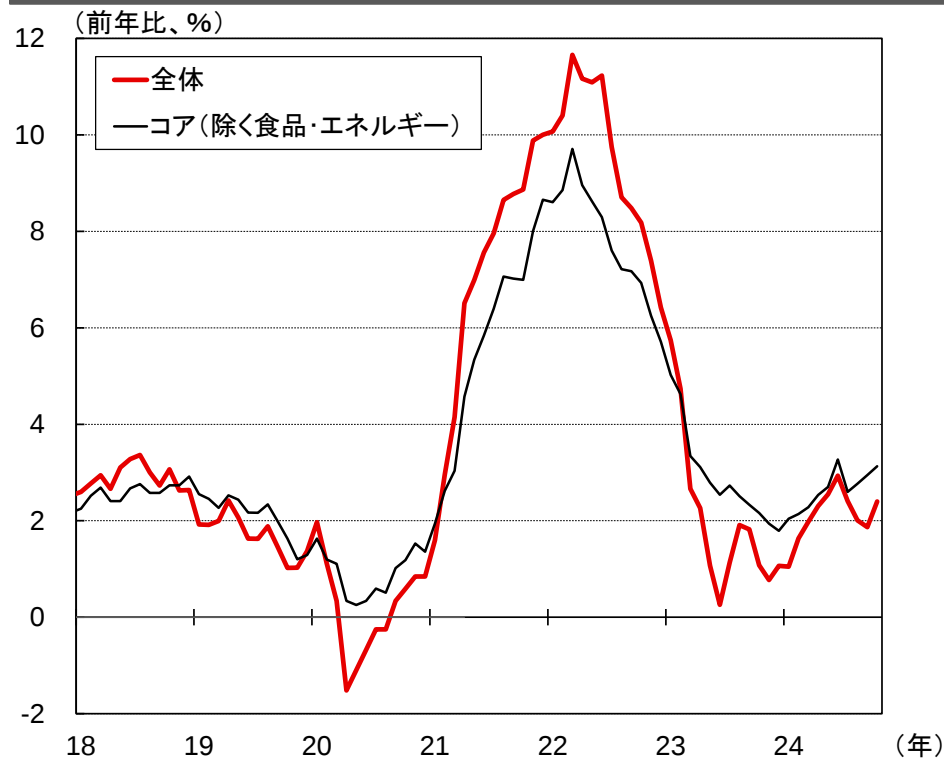
- 10月の消費者物価指数は、総合指数が前年比+2.6%(9月:同+2.4%)と伸びが加速し、食品とエネルギーを除いたコア指数は同+3.3%と前月から横這い。品目別にみると、ウェイトの大きい「航空運賃」は同+4.1%(9月:同+1.6%)と伸びが加速し、「ガソリン」は同▲12.2%(9月:同▲15.3%)、「中古車」は同▲3.4%(9月:▲5.1%)と、それぞれ下落幅が縮小。また、「住居費」は同+4.9%と前月から横這い。
- 10月の生産者物価指数は前年比+2.4%と4ヵ月ぶりに伸びが加速。内訳をみると、「財」は同+0.2%(9月:同▲1.1%)と3ヵ月ぶりに上昇に転じ、「サービス」は同+3.5%(9月:同+3.3%)と3ヵ月連続で伸びが加速。食品とエネルギーを除いたコア指数は同+3.1%(9月:同+2.9%)と3ヵ月連続で伸びが加速。

消費者物価指数の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

生産者物価指数の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

8. 国際収支

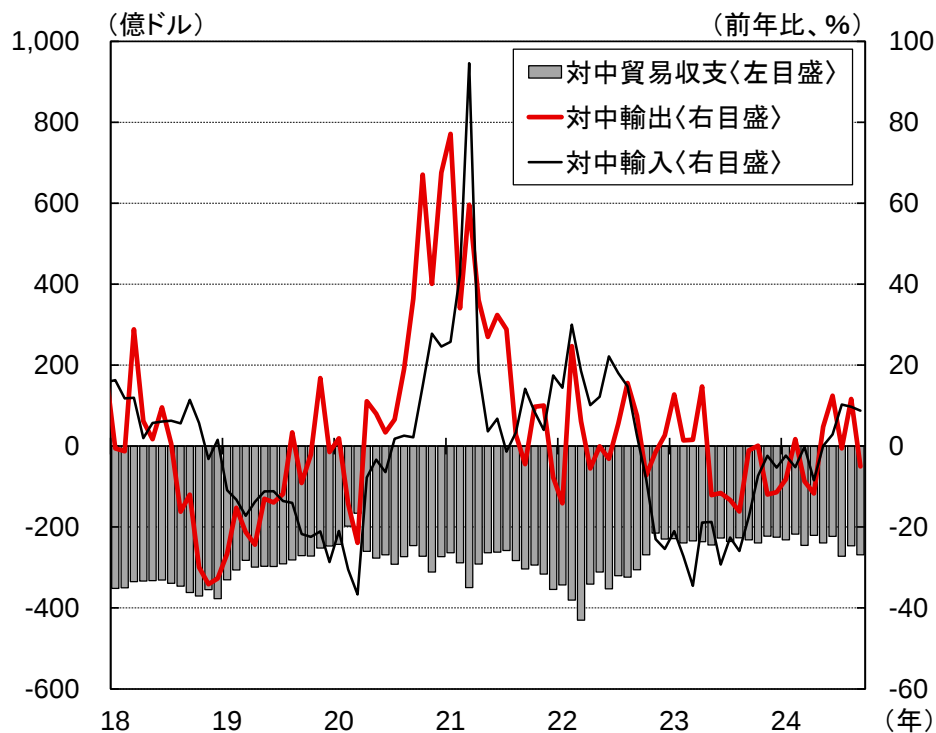
- 9月の貿易収支(財・サービス)は844億ドルの赤字と、2022年4月以来の高水準。赤字幅は前月比+19.2%(同+136億ドル)と2ヵ月ぶりに拡大。輸出は同▲1.2%(同▲32億ドル)、輸入は同+3.0%(同+103億ドル)。前年比でみると、輸出は+2.4%、輸入は+8.8%。
- 財の貿易収支を国・地域別でみると、米国の貿易赤字(財)の3分の1程度を占める中国は9月に269億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比+9.1%(同+22億ドル)と拡大。対中輸出(財)は同▲6.7%(同▲8億ドル)、対中輸入(財)は同+3.7%(同+14億ドル)。前年比でみると、対中輸出(財)は▲5.0%と2ヵ月ぶりに減少、対中輸入(財)は+8.8%と5ヵ月連続で増加。

貿易収支と輸出入(財・サービス)の推移



(注) 国際収支ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

対中貿易収支と対中輸出入(財)の推移

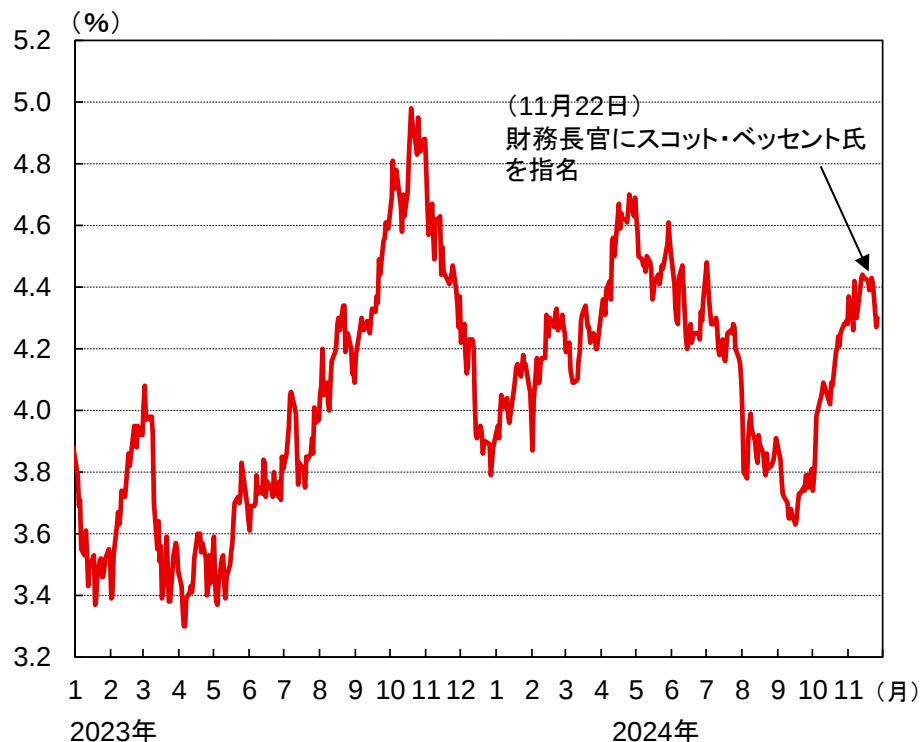


(注) 通関ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

9. 金融市場動向

- 10年物国債利回りは、堅調な景気動向によりFRBが利下げペースを緩めるとの見方に加えて、大統領選挙で勝利したトランプ氏の政策がインフレ再燃や財政赤字拡大を招くとの懸念から、11年半ばにかけて4.4%台で推移。11月22日にはトランプ氏が財務長官にスコット・ベッセント氏を指名し、同氏は財政規律重視との見方から、10年物国債利回りは低下。
- ダウ平均株価は、大統領選挙前は政策の不透明感から軟調に推移したものの、トランプ氏の勝利後、規制緩和や減税への期待が高まり、大幅に上昇。

10年物国債利回りの推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

ダウ平均株価の推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名 : 株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室(ニューヨーク)
1251 Avenue of the Americas, New York, NY 10020, USA

照会先 : ウォルショー 瞳 e-mail: hwalshaw@us.mufg.jp